

木津川市教育大綱



子どもの笑顔が未来に続く

幸せ実感都市 木津川

（第2次木津川市総合計画 の将来像）

令和6年9月改定

京都府 木津川市

【はじめに】

本市は、平成19年3月に3町合併により誕生したまちで、それ以降は子育て支援No.1のまちづくりの推進により、良質で魅力的な住環境が形成されてきました。また、大阪や京都から比較的近いこともあり、全国的に人口が減少する中にあっても、多くの子育て世代の転入によって人口は増加し、それとともに児童や生徒の数も大幅に増加しました。しかし、今後は、他の自治体と同様に人口は減少していくことが想定され、児童・生徒数も同様の傾向となるものと見込んでいます。

日本全体の社会を見渡すと、核家族世帯の増加や都市化が進むとともに、地域コミュニティの希薄化による家庭の孤立が懸念されるなど、こどもたちを取り巻く状況が変化しています。また、子育て支援やこどもの安全対策のほか、深刻化するいじめ問題や不登校、さらには、こどもの貧困やヤングケアラーへの対策など、教育に関するこどもへの対応が大きな課題となっています。

さらに、デジタル化やグローバル化が飛躍的に進展するなど、社会生活が大きく変容する中で、持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成と、その環境を支援する取組みが求められています。

こうした背景のもと、教育の担う役割はますます重要となっており、誰ひとり取り残すことなく、豊かで多様な人間性を育みながら、未来を生き抜く力を身に付けるとともに、本市に愛着を持ちながら、将来の木津川市、そして日本の担い手となる人材を育てることは、本市の使命であると考えています。

木津川市教育大綱では、本市の「教育理念」を掲げるとともに、本市の教育の課題を踏まえた「基本方針」をお示しし、家庭や地域のご理解とご協力をいただきながら、本市に関わるすべての人が、夢や生きがいをもって、安心して健やかに、心豊かに暮らし続けることができる「ひとづくり」を目指してまいります。

令和6年9月

木津川市長 谷口 雄一

【基本理念】

ふるさと木津川市に愛着を持ち、 未来につなげる「ひとづくり」

【基本方針】

1. 学校教育の充実、教育環境の整備

こどもたちが、将来の夢や希望を叶えられるよう、一人ひとりの教育的ニーズを把握し、個に応じた適切な指導・支援を通して、その持てる力を高める教育を推進します。

基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させるとともに、これらを活用して課題解決するために必要な思考力、判断力および表現力や、自ら調整しながら粘り強く学習に取り組む姿勢を育成し、確かな学力の向上に努めます。

幅広い知識・視野を持ち、こどもたちの多様な価値観を認めることができる教員の学び・育成を推進し、こどもへの深い愛情と洞察力を持った教員により、魅力ある教育活動を展開し、こどもだけでなく家庭や地域から信頼される学校を目指します。また、こどもたちが安全で安心して学べるよう、ハードとソフトとの両面から教育環境の充実に努めます。

日々進化するデジタル化に対応するため、児童・生徒の発達の段階に応じた情報活用能力の育成に努めるとともに、情報教育環境の充実に図り、分かりやすく、学習への興味や関心を高める教育を進めます。

2. 家庭や地域社会の教育力向上

こどもは地域社会の宝であるという認識のもと、学校・家庭・地域社会が連携し、協働してこどもを育てていくことが必要であり、こどもの教育環境づくりだけでなく、保護者が安心して教育に関わることのできる環境づくりに努めます。

こどもが生まれてから自立するまでの育ちを主に担う家庭と、誰もが親しみと愛着を持つ地域とが、豊かな人間性や社会性を育み、創造力と自主性を備えたたくましい人間として健やかに育っていけるよう、学校教育を支えるとともに、連携・協働する地域活動の支援を進めます。

すべての教育の出発点である家庭の教育力と、地域社会の教育力を高めることが重要であり、家庭や地域社会全体でこどもを健やかに育むとともに、地域の誰もが、お互いの絆を深め、人々が思いやり、助け合いながら暮らすことのできる「ひとづくり」を目指します。

3. ふるさと教育の醸成と推進

関西文化学術研究都市における最先端の科学技術と、木津川や里山をはじめとする豊かな自然、そして特別名勝・浄瑠璃寺庭園や、恭仁宮跡をはじめとする7件の国指定史跡、6件の国宝をはじめとする数多くの有形文化財など貴重な歴史文化遺産、これら誇れるものやかかけがえのないものとのつながりを大切に、故郷を愛し、慈しむ心を育みます。

未来を担うこどもたちの個性を活かしながら、社会の変化や国際化・情報化に対応できる人材を育成するため、生涯にわたる人格の基礎を形成する幼児教育、生きる力を育む学校教育において、歴史文化遺産や最先端の研究施設から地域の特長を学ぶ郷土教育の取組を進めます。

先人たちの営みや努力により引き継がれ、現在の木津川市が形成されてきたことを認識し、豊かな歴史文化遺産に恵まれた木津川市のすべてを、学び舎と位置付け、生涯にわたり学ぶ力と自ら行動する力を備えた次の世代へ継承する「ひとづくり」に取り組みます。

4. すべての世代に教育機会を創出

誰もが、自分自身を研鑽し、生涯にわたって学習できる環境をつくり、その学習成果を発表できる機会を提供するなど、学びを通して、幸せや生きがいを感じることができ、生涯にわたり活躍できる社会を目指します。

人生 100 年時代を迎え、市民一人ひとりが文化芸術、スポーツ活動などに親しむことで、自分の可能性を開花させることができるとともに、自身の持つ知識・技能を次世代に引き継ぐために、自ら考え、行動することに喜びを感じられる環境づくりを推進します。

高齢者の学習活動の活性化や社会貢献意識の醸成を図るとともに、主体的で自発的な活動が、すべての世代や地域社会に広がり還元されることで、こどもたちの学びや成長を支える仕組みづくりを進めます。

5. すべての人の可能性を引き出す共生社会の実現

多様化する市民のニーズに応えていくため、様々な機関や団体が連携しながら、すべての市民が年齢や性別などに関係なく、自由に教育、文化・芸術活動、スポーツ、健康増進、生きがいづくり、仲間づくりなどに取り組むことのできる環境づくりを進めます。

高齢者や障がいのある方々などにとっても暮らしやすい地域となるよう、地域福祉に関心を持ち、ボランティア活動等を通じ、福祉の心を育てる福祉教育を推進します。

すべての市民が社会参加できるまちづくりを推進するとともに、家庭や学校、地域や職場等、あらゆる場を通じて人権教育と啓発に取り組み、すべての人の尊厳と人権が尊重される共生社会の実現を目指します。